251号
2022年9月26日

まちづくりニュース

常盤台の景観を守る会
常盤台まちづくり委員会

事務局　島田晴子　　tel・fax　3960 - 3869

ホームページ
https://tokiwadai.net/

― 都心低空飛行問題について ―

○　ビッグニュース！と思ったら

羽田発着、東京湾上空に新ルート
騒音緩和へ国交省検討

国土交通省は羽田空港を発着する航空機について、東京湾の上空を通る新たな飛行ルートを設定する方針だ。2020年に導入された都心の上空を飛ぶルートは騒音や安全性に関係自治体の懸念がある。新たな飛行システムを導入して海上からの発着を増やし、陸地の上を通過する航空機を減らす。都心の騒音問題を和らげ、訪日客受け入れ拡大の体制を整える。
海上を飛ぶ新たなルートは23年度中に方針をまとめる。数年内の運用開始を目指す。

羽田空港では国際線の発着数を増やすために、東京湾上空を飛ぶ主力ルートに加え、都心の上を飛ぶ複数ルートの運用を20年3月に始めた。騒音の問題が千葉県などに集中するのを避ける狙いもある。ただ、騒音や落下物を心配する住民の声は多い。

国交省は羽田の飛行ルールの見直しや飛行システムの改良を進め、海上を通る新ルートを設ける。ドイツなど世界17カ国以上が導入している「RNP-AR」の導入などがシステム改良時の候補となる。航空機を測位衛星からの信号をもとに自動操縦する仕組みで、多数の航空機が円滑に発着できるようになる。

22年度から航空会社と連携して安全性などを検証する。関係者間の調整を経て23年夏～秋にもルート設計や運用に関する素案をまとめる。新しい海上ルートの運用開始後は都心の上空を飛ぶ航空機をできる限り減らし、海上ルートに移していく。

政府は首都圏空港の国際競争力を高めるため、羽田空港と成田空港の機能強化を進めている。20年時点の年間発着容量は計約83万回で、20年代後半には計100万回に増やす。120万回前後の米ニューヨーク圏や英ロンドン圏に次ぐ規模になる。（9・21「日経デジタル」）

ぬか喜びも束の間、真相判明　裏面を！

○「常盤台の花」展

９月２９日（木）～１０月４日（火）
10時～16時（３日は14時迄の予定）
於　「ギャラリー服部」
常盤台の景観を守る会
常盤台公園はなづくりの会　共催

＊ マーマレードも会場で販売します　＊

○「定点写真」展

具体的な日にちは未定ですが、1969年と2012年と2022年の街並みを定点観測した写真展を企画しています。
会場が取れれば１２月１日（木）～６日（火）に催したいと思います。
常盤台の変容を垣間見ることができ、今後目指すべき街の姿を考えるよすがとなるでしょう。

○　常盤台が「じゅん散歩」に登場

９月16日(金)10時からのＴＶ朝日の「じゅん散歩」という番組に、常盤台が取り上げられました。短い街歩きでしたが、フジヤが詳しく紹介されていました。あとは天祖神社の森の番屋と駅前ロータリーの映像と紹介ぐらいの簡単なものでした。

○　航空機内の雑誌にも常盤台が

飛行機の座席のかごに宣伝の雑誌が入っていますが、ＪＡＬの「スカイワード」という機内誌９月号に「ぶらり、おさんぽ日和」vol.21「板橋区常盤台エリア」という見開きの記事が出ていました。（Ｓさんからの情報提供）
ここのところ、立て続けに我が街が取り上げられているのは何か訳があるのでしょうか。

日経の記事の謎

表面の日経デジタルの記事は、一見ビッグニュースと思ってしまい、全文を掲出したものである。後に問題があることが分ったのだが、折角なのでそのまま出すことにした。

朝日新聞は翌二十二日の朝刊にほぼ同内容の記事を載せている。

院内聞き取りで羽田問題解決プロジェクトの大村代表や二、三の議員が確認すると、

国交省としては、羽田新ルートに関し八月の第五回検討会までに明らかにしている内容が全てで、今回の記事は何ら新しい情報に基づいたものではなく日経に取材も受けていない。海上ルートと断定した表現もこれまで使ったことはない。あくまで日経がこれまでの検討会の内容を日経なりに解釈して書いたと思うが、大きく抗議するほどの内容とは思わないので特に対応はしていない。朝日は日経の記事をみて取材に来たので対応したがその表現に関しては日経同様、特に対応しない。

というもの。日経は政治的には中立なのかと思いきや、いわゆる提灯記事だったのだ。

これについては元日航機長で航空評論家の杉江氏がツイッターで憤っている。

まるで画期的な解決案のように表現されているが、実現不可能なものさえある。品川区長選が迫り、羽田問題は争点になっている。このような記事は新ルート反対派のガス抜きとなり、保守派の後押しをすることになる。国交省は先年の品川区議選の投票直前にも大量のビラで同様の効果を図った事がある。

安倍元首相の国葬是非

イギリスのエリザベス女王の国葬が粛々と行われた。あの壮麗な儀式の美しさにはどんな催しもかなうまい。安倍元首相の国葬が本当に行われると、国民の敬愛と永年の信頼とにおいて、全く違うことが露呈して、我々は恥ずかしい思いをするのではないか。国葬に反対して焼身自殺を図った人まで現われるなど、比較するのも申し訳ない気がするほどなんと隔たりのあることか。ここまで来たら一度延期して、国民の意思を確かめて見直してはどうか。自民党と旧統一教会による合同葬が一番適当だろう。

吉川英治著「下頭橋由来」

Tさんがラジオを聞いていて偶然耳に入った「下頭橋由来」のことを教えてくれました。子ども達の間ではゲトバシ、ゲトバシと言っていましたが、ゲトウバシと言うのが正しいのかも知れません。

頭を下げるというように読めることから作家が着想した話なのかもしれませんが、この橋のたもとに居つき、村人から親しまれていた乞食が、仇討ちの対象となって殺されるが、彼が永年溜めていた銭で石神井川の橋普請をすることが出来たと言う話です。

Tさんは地元の常盤台小学校や上板橋第一中学校に、このような吉川英治の作品があることを知って貰いたいと思っているそうです。

（講談社文庫　吉川英治　歴史時代文庫七六
柳生月影抄　名作短編集二に入っています）

常盤台公園のはなづくり

夏枯れ状態の花壇でしたが、マリーゴールドのような本来秋に咲く菊の類は、やっと元気になってきました。

公園では背の高いヒマワリが十数本、今頃花を見せ、種の重みでうなだれたものもあります。六月に種を貰ってから蒔いたので、成長が遅いのかも知れません。来年は背の低いヒマワリと混ぜると良いかと思います。ビッグスマイルという矮性種もありました。

十一月に春向けの球根植えをする、端境期のような状態になっています。猛威を振っているヤブカラシや伸びた芝生の手入れなどして十一月に備えます。

花が少なくなっているとは言え、ヒガンバナの類のきれいなピンクの花が咲いていますし、ヒガンバナそのものももうじき姿を見せてくれるでしょう。

作業車が入っていたのでどうしたのかと思ったら、角の花壇にある水道施設の下の水道管の修理だそうでした。公園の手入れは、大中小様々な区内の公園があるので大変な作業だと思います。地域によっては区民の協力が得られない所もあるのではないでしょうか。自分の住んでいる街はきれいであって欲しいと誰しも思うでしょうけれど。